

魅力ある教育を願って

～ 児童が、主体的に・深く・楽しく学べる授業において「1コマ 40 分授業」～

児童一人一人の学びをより充実させるため、現行の1コマ 45 分授業から、**40 分授業の日課**を検討しています。

40 分授業は、児童の集中力の持続しやすさ、授業のメリハリ、探究・対話活動の組み込みやすさなど、児童の学びの質向上、更に少人数の良さを生かし学習活動をより密度の高いものにしてけると考えています。

また、生み出された時間を『創造の時間(仮称)』として、ここ遠山郷の豊かな自然環境の中、**児童が存分に探究することを楽しんだり、一人一人に合った課題やペースで学習に向かったりする時間**として、日課に位置づけたいと考えており、再編後の学校の『魅力ある教育』の一つにしたいと考えています。

令和9年度から、多くの児童がバス通学となり、特にバス到着後、一日の生活にゆとりを持ち個々のペースで、また安心して、授業開始に向かえることも大事にしたいと考えました。

ゆとりある学校生活の中で、児童も職員も**柔らかく笑顔で向き合う**一日を願い、日課見直しを推進していきたいと思ひます。

< 40 分授業において日課作成のポイント >

- ① 個々の発言機会が多い、少人数学級の授業において、発言からフィードバックが素早く行え、テンポのよい構造ができます。
- ② 40 分×2 コマ+休憩5分=85 分を1ブロックとして、午前中を休み時間を挟んで2ブロック、午後は1ブロックまたは 40 分 1 コマで日課を構成します。**※業間のチャイムをなくします。**
→ 熱中した児童の思考を途切れさせることなく、児童の意識に沿った、柔軟な運用もできます。
例) 1 コマ目 50 分、2 コマ目 30 分等
- ③ 1コマを 40 分授業にした場合、欠落コマ数が発生します。 $5分 \times 1,015 \text{ コマ} \div 40 \text{ 分} = \underline{126.8 \text{ コマ増}}$ となります。
→ それを補うために(1)余剰時数の削減(必要に応じて創造の時間活用で対応)、(2)行事・学校裁量の整理(運動会練習、音楽会練習を教科指導コマ数カウントにする等)を実施します。
※令和8年度の登校日数 208 日の見通し(令和7年度 登校日数 205 日)
- ④ 令和9年度から、バスの運行時間の関係(現状案)により、始業が8時 35 分からとなると、そのまま朝の会→授業では、児童の負担が大きいと考え、創造の時間(仮)(20 分間)→朝の会(15 分間)→授業としました(朝の会の前に時間を確保します。)

※8:00到着可能でも、授業開始前の時間を確保し、8:35開始としたい。